

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	農政課	
施策	21	農林業の振興	評価 責任者	佐々木 伸司	内線 6032
小施策	21-2	生産基盤の整備	評価 シート 作成者	鈴木 茂也	内線 6033

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<ul style="list-style-type: none"> ・農地や森林の生産性の向上や公益的機能の維持向上が求められていることから、生産基盤施設の整備促進及び長寿命化など、適正な維持管理を行う必要がある。 ・有機物資源活用施設を有効に利用し、耕畜連携による資源循環型農業生産に努める必要がある。 ・松くい虫被害地域が拡大していることから、拡大防止に取り組む必要がある。 	農道や林道、農業用水、林地の地籍調査などの生産基盤の整備により、農地や林地の生産性の向上や森林の公益的機能の維持向上を図る。また、耕作放棄地などの再生や農業用施設の維持管理を地域ぐるみで進めるとともに、有機物資源の有効利用による環境にやさしい農業生産を推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
農業者・林業者	生産性の向上及び生活環境の改善を図る。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
				成果点	成果の要因分析
指標① 水田面積	単 位	目指す方向			
	ha	→			
当初値 (H25)	4,132	R1目標値	4,132	R6目標値	4,132
【水田面積】 ・水田面積が増加している(4,119ha→4,148ha) 【農業産出額】 ・本市の米の農業産出額が増加した。(農林水産統計「市町村別農業産出額(推計)」277千万円→301千万円) 【需要に応じた米生産】 ・本市の米の生産目安数量内の作付により、全国的な米価の安定に寄与した。				【水田面積】 ・県営松川大堰地区土地改良事業の実施に伴い、受益地となる土地の一部を農用地区域に編入したことによる。 【農業産出額・需要に応じた米生産】 ・需要に応じた米生産の推進により、超過作付の解消が進み需給が改善傾向となり、主食用米の価格が上昇したことが寄与していると考えられる。 ・経営所得安定化対策を活用した飼料用米や加工用米など新規需要米の生産拡大を図るとともに、農地の有効利用に努めたことによる。	
問題点				問題の要因分析	
【農業基盤の整備と長寿命化】 ・圃場、農道、水路など農業生産の基盤となる施設等の整備促進や長寿命化に向けた対応が急務である。 【農地の集積・集約化】 ・平野部においては一定の成果を上げているが、中山間地域等の条件不利地域においては、集積・集約化の動きが停滞している。				【農業基盤の整備と長寿命化】 ・整備には多大な費用が必要とされるため、事業計画に見合った予算が措置されにくく、事業の進捗に大きな影響が生じていることによる。 【農地の集積・集約化】 ・農村地域における担い手の減少や狭小な農地が点在するといった地理的な要因による。	
指標② 畑作面積	単 位	目指す方向			
	ha	→			
当初値 (H25)	2,434	R1目標値	2,434	R6目標値	2,434
【地域農業マスタープラン】 ・「人と農地の問題」の解決を図るため、地域農業マスタープランの更新を図った。 ・地域農業マスタープランに位置付けられた中心経営体に対し、農業用施設・農業用機械の導入を支援し、農業者の生産意欲の向上を図った。				【地域農業マスタープラン】 ・国からの交付金を活用した事業の周知に努めるとともに生産者からの要望を広くすくいあげ、生産性が高く競争力のある産地形成を目指したことによる。	
問題点				問題の要因分析	
【畑作面積】 ・畑作面積が減少している(2,427ha→2,426ha) 【担い手の負担】 ・農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理に対する担い手の負担が増加している。				【畑作面積】 ・農家分家住宅の建設に伴う農用地区域からの除外による。 【担い手の負担】 ・農村地域の過疎化や農業者の高齢化の進展により集落の機能が低下している。	
指標③ 樹園地面積	単 位	目指す方向			
	ha	→			
当初値 (H25)	487	R1目標値	487	R6目標値	487
【果樹産地化】 ・りんごのわい化樹への更新面積が増大した。 【環境保全型農業】 ・減農薬・減化学肥料による特別栽培などの環境保全型農業の取組を推進した。 ・生産者の中に国際水準GAPに対する意識が高まり、環境と調和した農業生産活動に対する認識が深まった。				【果樹産地化】 ・わい化樹への更新に伴い、危険な高所作業が減少し、農作業の省力化が図られたことから、生産コストが低減した。 【環境保全型農業】 ・国の環境保全型農業直接支払交付金事業の活用により、環境負荷の軽減に配慮した農業者を支援することができたことによる。 ・交付要件に国際水準GAPの実施が加わったことから、生産者を受講対象とした研修会を実施したことによる。	
問題点				問題の要因分析	
【果樹産地化】 ・りんご農家の従事者の高齢化や後継者不足により、担い手が減少している。 【担い手の負担】 ・農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理に対する担い手の負担が増加している。				【果樹産地化】 ・りんご栽培においては、収穫や適果等の機械化が困難な作業や剪定等の高度な技術が必要な作業が多く、担い手となる新規就農者が少ない。 【担い手の負担】 ・農村地域の過疎化や農業者の高齢化の進展により集落の機能が低下している。	

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性 ★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
★【農業生産基盤の整備】 地域の立地特性に応じた圃場整備や農道整備、かんがい排水事業を推進するほか、老朽化した水路施設の更新・改修等を推進する。 ★【荒廃農地の発生抑制と再生利用】 認定農業者等の地域の担い手に対する農地の集積・集約化を推進するほか、中山間地域等における営農の継続に対する支援や、農地法に基づく遊休農地に関する措置、荒廃農地の再生利用活動への支援を推進する。(「21-1:経営力・生産意欲の向上と後継者の育成」に掲げる主要事業により推進する) ★【農用地の保全活動の支援】 農用地の保全のため、地域の共同による持続的な保全活動のための支援を推進する。 ★【水田農業を支える担い手の育成】 消費者から選ばれる米産地を目指し、消費者と市場のニーズに対応できる米の安定生産により売れる米づくり体制を構築するとともに、米の売れ残りが生じないように生産する「需要に応じた米生産」を実施する。(「21-1:経営力・生産意欲の向上と後継者の育成」に掲げる主要事業により推進する)
★【農業生産基盤の整備】 地域の立地特性に応じた圃場整備や農道整備、かんがい排水事業を推進するほか、老朽化した水路施設の更新・改修等を推進する。 ★【荒廃農地の発生抑制と再生利用】 認定農業者等の地域の担い手に対する農地の集積・集約化を推進するほか、中山間地域等における営農の継続に対する支援や、農地法に基づく遊休農地に関する措置、荒廃農地の再生利用活動への支援を推進する。(「21-1:経営力・生産意欲の向上と後継者の育成」に掲げる主要事業により推進する) ★【農用地の保全活動の支援】 農用地の保全のため、地域の共同による持続的な保全活動のための支援を推進する。 ★【生産性の向上と高品質化の促進】 市場価格の高い農産物の生産を促進し、地域の特性に応じた適地適作の推進、栽培技術の指導強化及び生産施設の整備を促進する。(「21-1:経営力・生産意欲の向上と後継者の育成」に掲げる主要事業により推進する)
★【農業生産基盤の整備】 地域の立地特性に応じた圃場整備や農道整備、かんがい排水事業を推進するほか、老朽化した水路施設の更新・改修等を推進する。 ★【農用地の保全活動の支援】 農用地の保全のため、地域の共同による持続的な保全活動のための支援を推進する。 ★【生産性の向上と高品質化の促進】 市場価格の高い農産物の生産を促進し、地域の特性に応じた適地適作の推進、栽培技術の指導強化及び生産施設の整備を促進する。(「21-1:経営力・生産意欲の向上と後継者の育成」に掲げる主要事業により推進する) ★【積極的な農業生産の展開】 産地化が進んでいる「盛岡りんご」を中心に、市場での競争力の強化に向けた戦略的な取組を推進する。(「21-1:経営力・生産意欲の向上と後継者の育成」に掲げる主要事業により推進する)

実績値の推移					実績の評価																																							
				単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析																																					
指標④ 民有林面積				ha	→																																							
当初値 (H25)	48,168	R1目標値	48,168	R6目標値	48,168																																							
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (ha)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値</td> <td>48,168</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>48,100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>48,100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>48,100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>48,100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td></td> <td>48,168</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td></td> <td>48,168</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td></td> <td>48,168</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> <td>48,168</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td></td> <td>48,168</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>48,168</td> </tr> </tbody> </table>							年度	実績値	目標値	当初値	48,168		H27	48,100		H28	48,100		H29	48,100		H30	48,100		R1		48,168	R2		48,168	R3		48,168	R4		48,168	R5		48,168	R6		48,168		
年度	実績値	目標値																																										
当初値	48,168																																											
H27	48,100																																											
H28	48,100																																											
H29	48,100																																											
H30	48,100																																											
R1		48,168																																										
R2		48,168																																										
R3		48,168																																										
R4		48,168																																										
R5		48,168																																										
R6		48,168																																										
<p>【市産材利用の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市産材を積極的に利用する工務店が増加しているとともに、市産材利用住宅に対する補助申請も上向きである。 <p>【市有林の造成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市有林等の熟成化が進み、今後、伐採適齢期を向かえることから、計画的な売り払いを実施していく。 							<p>【市産材利用の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市産材利用住宅の補助制度が浸透しつつあるとともに、製材工場による市産材の安定供給が図られていることによる。 <p>【市有林の造成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画的な間伐等の保育作業を継続し、市有林等の適正管理を図ったことによる。 																																					
<p>問 題 点</p>																																												
<p>【市産材利用の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共施設における木材利用量のうち、市産材の利用量が伸び悩んでいる。 <p>【森林の適正管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工林の伐採跡地への再造林が停滞している。 利用期を迎えているにもかかわらず放置された森林が増加している。 森林の管理を市町村に委ねようとする森林所有者の増加が懸念される。 							<p>【市産材利用の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共施設工事に市産材を活用する仕組みが十分に確立されていない。 <p>【森林の適正管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木材価格の低迷などにより、森林経営に対する森林所有者の意欲の低下が影響している。 																																					

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
★【森林資源の循環利用の推進】私有林の間伐作業や再造林に対し支援を行い森林資源の循環利用を促進する。	
★【地域住民による森林保全】地域住民が森林所有者と協働で行う森林保全などの取組に対し支援を行い、山村地域の活性化や森林の多面的機能の発揮を促進する。	
★【林道の安全確保】「林道橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、計画的に補修工事を実施することで、橋梁の長寿命化によるトータルコストの縮減、林業作業における通行の確保及び辺地と市街地を結ぶ交通ネットワークの安全確保を図る。	
☆1【市産材利用の拡大】森林環境譲与税を活用し、商業店舗の木質化に対する支援を推進するとともに、公共施設の新設・補修等において市産材を利用する仕組みを検討する。また、市民に対する市産材の魅力の発信に努める。(「21-1: 経営力・生産意欲の向上と後継者の育成」に掲げる主要事業により推進する)	